

触れて楽しむ天体写真展

小美玉 常磐大有志が企画

品には点字の解説も付く。

「全盲の方が、天体写真を触りながら宇宙をイメージしていた姿が寂しそうだった」と知人から話を聞いたのが作品制作のきっかけと中村さん。2005年、触覚型天文資料の研究が進む米シカゴ大附属天文台の研修に参加し、試行錯誤を重ねてきた。

と、同学部の学生有志で結成された「TEA

M MASA」が企画。「晴眼者と視覚障害者が、同じ天文資料を楽しめるように」と全国各地で開催してきた。

作品は「カプセルペーパー」という特殊な紙に印刷されたもの。熱が加わると黒い部分が膨張し、1ミリ程度の凹凸ができ、輪郭が浮き上がった天体写真を作ることができる。作

天体写真に凹凸をつけ、視覚障害者も触れて楽しめる「さわられる天体写真展」が小美玉市部室の同市四季文化館みのくれで開かれている。星座などを立体化した写真やイラストが展示され、来場者は作品に触れながら星空のイメージを楽しんでいる。27日まで。

同展は、常磐大学コミュニティ振興学部教授の中村正之さん(59)



会場には、おとめ座

やしし座といった黄道

12星座や太陽系の惑

星、太陽のガスが吹き

上がる現象プロミネン

ス(紅炎)など、中村

さんが撮影した写真を

立体化した29点を含む

70点を展示。自分の星

座を触って楽しんだ同

市の中学1年、小林な

なみさん(12)は「立体

的な星座を触って感じ

るのは、面白い体験だ

った」と話した。午前

9時~午後9時(最終

日は同5時まで)。入

場無料。(笹目悟)

凹凸が付いた天体写真を触って楽しむ来場者―小美玉市部室の市四季文化館みのくれ